

令和5年度 新潟県立駒林特別支援学校 学校評価のまとめ

1 各学部の成果と来年度に向けて

(1) 小学部

- ・ 1組(訪問学級)は、スクーリング時に同学年のD組児童と誕生会等を実施したり掲示物を一緒に貼ったりして、小学部卒業に向け同学年のつながりを深めることができました。
- ・ 2組は今年度から日課表に自立活動と学級活動を位置付けました。学級で取り組む自立活動は、学級内でも児童に個人差があるので難しい部分もありましたが、それぞれ工夫して実施できました。また、図工の学習も学級ごとに取り組みました。学年の課題段階に合わせた学習ができ、作品展の平面作品・立体作品にも学級や児童の個性が発揮されました。
- ・ マラソン大会を12月に実施し、保護者の皆様に参観していただくことができました。たくさんの保護者の方に来校していただき、児童も張り切って取り組みました。

(来年度に向けて)

- ・ 体育と音楽で、児童の課題や興味・関心に応じたグループ編成を行います。
- ・ 自立活動の取組について、学部内で情報を共有し年間学習計画に反映させます。
- ・ 6年生の修学旅行を実施します。

(2) 中学部

様々な体験活動を取り入れたり、自立活動の時間を意図的に設けて取り組んだりすることを通して、日常生活で使ういろいろなスキルを学習し、生徒たちは少しずつ自分でできることを増やしたりたくさんの力を付けたりすることができました。生徒たちがより自分の身に付けた力に自信をもち確かな力にできるよう、来年度も計画的に体験活動などを行っていきます。

生徒の実態に合った作業内容を準備し作業工程や作業環境を工夫することで、進んで取り組める時間が増えたり落ち着いて時間いっぱい取り組めたりできるようになってきました。生徒たちが達成感を感じ、意欲的に取り組めるよう、より目標を明確化し、意識させていきます。

タブレットや図書、ボードゲームなどの環境を整えたことで、「これをしたい」と自分が楽しみたいこと意思表示ができるようになったり、それを媒介にして関わりながら一緒に楽しんだりする姿がたくさん見られるようになりました。今後も興味の広がり交流の輪の広がりを目指し、よりよい環境をつくっていきます。

(3) 高等部

いろいろな場面で、将来に向けて意識を高める働き掛けをしました。

職業生活や校内・職場実習では、生徒の実態に合った学習内容や支援を行ったことで、働く姿勢や意欲が高まり目標に向けて頑張る姿が見られました。実習の事前・事後学習でも自分の姿を振り返り、将来への希望をもって次の課題を考えるなど、一人一人の成長が感じられました。

課題学習や職業生活などはグループ別で、保健体育は学部合同で行いました。生徒の実情や学習内容に応じて柔軟にグループを変更したことで、授業のねらいをより明確にして学習できました。自立活動では、健康に関する学習やコミュニケーションに関する学習、情報モラルに関する

学習などを学級又はグループ別に行いました。各授業での取組が日常生活の中でも生かされるように、来年度も継続していく予定です。

修学旅行、宿泊学習、校外学習、施設見学では、各学年の実態に合わせた見学先や活動内容を取り入れ、友達と関わりながら活動したり、楽しい思い出を作ったりすることができました。

来年度に向けては、職業生活の学習活動を見直し、作業内容や支援方法を工夫しながら改善を図ります。

今後も高等部職員全体で共通理解を図り、生徒たちの思いを大切にしながら働き掛けていきます。

2 保護者アンケートより

ほとんどの項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な評価が 90%以上か、それに近い数値となっています。多くの保護者の方から、当校の教育活動を高く評価していただいている結果と捉えています。また、「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の否定的な回答や「分からない」との回答もほとんどの項目で 0~3.6%と昨年度と比較して少なくなっています。

しかし、質問①の「お子さんは、学校へ楽しんで通学している」の項目については「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」が合わせて 14.3%と高く、児童生徒が楽しんで通学できる魅力ある学校づくりに取り組んでいかなければなりません。

質問⑥の「いじめを未然に防止する取組を適切に行っている」については、「分からない」が 10.7%と高く、学校での取組がご家庭にもっと分かりやすいように発信しています。

学校では、普段から職員が児童生徒一人一人の様子を丁寧に観察するとともに、月予定でもお知らせしている通り、学期に1回、児童生徒にアンケート調査を行い、いじめの早期発見に努めています。いじめが発見された場合には、いじめ対策推進教員を中心に職員が連携して迅速、適切に対応しています。12月には、人権教育強調週間を設け、挨拶運動や相手を思いやる言葉や行動の授業を行いました。また、県が行ったいじめ対策総点検では、概ね良い評価を受け、一部指導された内容についてはすぐに改善しました。今後も迅速、丁寧な対応をしていきます。

お寄せいただいたご意見やアンケートの結果を真摯に受け止め、今後も保護者の皆様のご意見、ご要望に耳を傾けていきます。また、保護者の皆様と連携するのはもとより、学校の取組を分かりやすく伝える工夫をし、透明性の高い学校運営を行い、よりよい駒林特別支援学校となるよう来年度も取り組んでいきたいと考えています。

記述欄に記載していただいたご意見では、他の専門機関等との連携の在り方や地域との交流について等のご意見をいただきました。別紙回答用紙をご覧ください。気になることやご意見がありましたら担任までお知らせください。また、「いつもありがとうございます。」「満足しています。」等、我々職員にとってたいへん励みになるご意見も多くいただきました。ありがとうございます。アンケートへのご協力ありがとうございました。

3 児童生徒アンケートより

ほとんどの項目で、○(はい)の肯定的評価が高いものの、質問③「学校の学習は、よくわかる」の項目が 77.2%と他の項目よりも低いことが分かります。この結果を真摯に受け止め、個々の実態に応じた支援を心掛け、一人一人の児童生徒が力を伸ばし、充実した学校生活を送れるよう努めていきます。

また、記述欄の「学校で、がんばりたいことや、やりたいことなどを書いてください。」の項目では、「国旗ゲームをやりたい」(小)「字を書く勉強をがんばりたい」(小)「iPad がやりたい」(小)「ランニングをがんばりたい」(中)「おにごっこをやりたい」(中)「職場実習をがんばりたい」(高)「音楽をがんばりたい」(高)等、児童生徒が多く頑張りたいことややりたいことを書いてくれました。これからも児童生徒一人一人の思いや考えを大切にしながら、教育活動に取り組んでいきます。

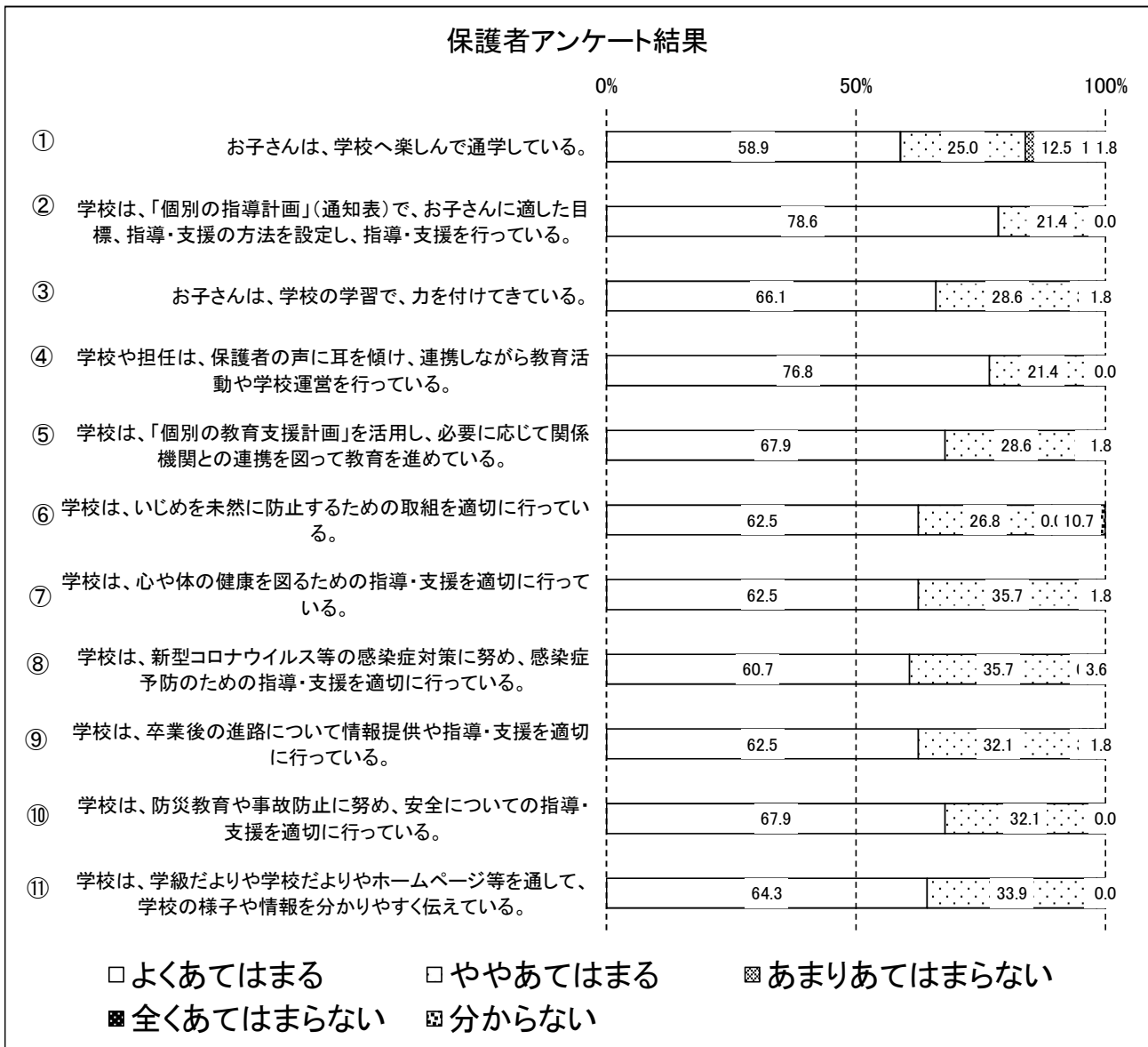
4 学校評議員会より

学校評議員会では、自立と社会参加に向けた切れ目のない教育活動について話題に上りました。当校では、実態把握に基づき、発達段階に応じながら、丁寧な指導・支援を実践していることを評価いただきました。今後も一人一人の児童生徒の将来の姿を思い描き、小中高等部が連携して教育活動を行っていくことはもちろんのこと、保護者、地域、専門機関が目標を共有し、連携して支援していくことができるよう学校が橋渡しをし、手を取り合って指導・支援していきたいと考えています。また、地域の子どもは地域で学ぶことができるよう、居住地における交流学习を充実させていきたいと考えています。

地域との連携の在り方についても話題に上がりました。新型コロナウイルス感染症の拡大により変化した学校や地域、また世代交代を迎える中で地域の在り方が問われている今、学校と地域がよりよい結び付きをもち、相乗効果が生まれるような関係作りを模索していきたいと考えています。

今後も児童生徒の成長のために教育活動の充実を図っていきます。

令和5年度 学校評価 保護者アンケート結果(回答数56 回答率88.9%)



令和5年度 学校評価 児童生徒アンケート結果(回答数57 回答率87.7%)

